子どもとの交流にみられる夫婦の差

── 都市の夫婦のみ世帯の高齢者 ──

古谷野 亘，西村 昌記，水嶋 陽子，矢部 拓也

第 47 回日本老年社会科学会大会一般報告，2005.6.

【目的】老親と子どもとの交流にあるといわれる男女の差を、夫婦の比較を通して検証することを目的とした。

【方法】調査は、2003 年 3 月に、東京都小平市に居住する夫婦のみ世帯の高齢者夫婦 400 組（夫の年齢が 70～79 歳）を対象として、訪問面接法により実施された。調査対象者の選定は住民基本台帳からの無作為二段抽出によった。夫婦ともに回答を得た有効回収数は 270 組、回収率は 67.5%であった。調査対象者には、すべての別居子について、その一人一人との交流の態様および基本属性をたずねた。この手続きによって、248 組の夫婦と 499 人の別居子（娘 238 人、息子 261 人）との交流に関する情報を得た。分析対象となった夫婦の年齢は、夫が 70～79 歳、平均 74.0 歳、妻が 61～82 歳、平均 70.4 歳であった。

分析は、夫婦と子どものトライアドを単位として行った。子どもとの交流の態様を表す 14 の指標をとりあげ、該当する妻および夫の比率を求め比較した。

【結果】夫婦と子どもとの距離に子どもの性による差はなかった。しかし、子どもとの交流には妻と夫の間で、また娘と息子の間で差が認められた（表参照）。金銭的援助の授受を除いて、子どもとの交流を有する者は夫より妻で多く、また息子より娘で老親との交流を有する者が多かった。そして、同伴行動と情緒的サポートの授受では、娘との交流を有する妻（母）が特に多かった。

【考察】本研究においては、夫婦と子どもとのトライアドを分析単位として、父親に比べて母親が子どもとの間に密接な関係を維持していることを明らかにした。老親との距離に息子と娘の差はなかったので、娘と息子の差は距離の差によるものではない。子どもとの交流に見られる夫婦の差が交流の内容によって異なることを考え合わせると、子ども（特に娘）と母親との間の情緒的な結びつきの強さが、子どもとの交流に見られる夫婦の差をもたらしていると考えられる。

子どもとの交流の態様（該当する妻および夫の割合） (%)

	妻			夫		
	娘	息子	全体	娘	息子	全体
週に 1 回以上会う	26.6	15.1	20.6	21.9	10.9	16.1
〃　親から連絡する	43.0	18.8	30.4	14.8	9.2	11.9
〃　子どもから連絡がある	50.2	20.0	34.4	24.9	13.8	19.1
一緒におしゃべりをする	76.5	44.8	59.9	58.4	43.3	50.5
一緒に買い物などをする	50.4	25.3	37.3	29.8	21.1	25.3
一緒にいてほっとする	74.4	56.3	64.9	64.3	51.0	57.3
プレゼントをあげた	77.7	62.1	69.5	68.5	57.1	62.5
プレゼントをもらった	89.5	75.1	82.0	81.9	67.0	74.1
相談事を聞いてあげた	40.8	23.4	31.7	26.5	21.8	24.0
相談事を聞いてもらった	27.7	14.9	21.0	10.9	12.6	11.8
用事をしてあげた	34.9	23.0	28.7	27.7	16.1	21.6
用事をしてもらった	38.2	29.1	33.5	28.2	23.4	25.7
金銭的援助をしてあげた	20.6	19.2	19.8	20.6	20.3	20.4
金銭的援助をしてもらった	7.1	5.4	6.2	4.6	5.7	5.2

子どもとの交流にみられる夫婦の差

― 都市の夫婦のみ世帯の高齢者 ―

古谷野 亘, 西村 昌記, 水嶋 陽子,
矢部 拓也, 高木 竜輔

【目的】

老親と別居子との交流にあるといわれる男女の差を、夫婦の比較を通して検証することを目的とした。

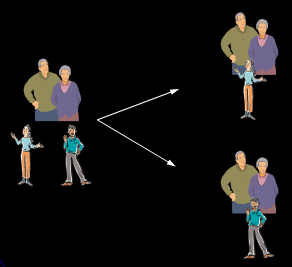
【方法】

調査は、2003年3月に、東京都小平市に居住する夫婦のみ世帯の高齢者夫婦400組（夫の年齢が70～79歳）を対象として、訪問面接法により実施された。調査対象者の選定は住民基本台帳からの無作為二段抽出によった。

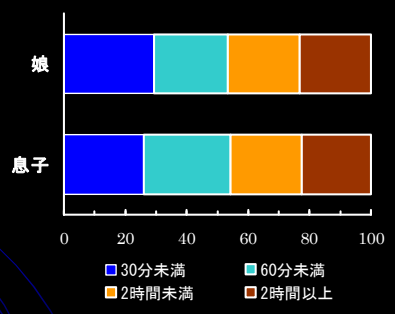
夫婦ともに回答を得た有効回収数は270組、回収率は67.5%であった。

【分析の単位】

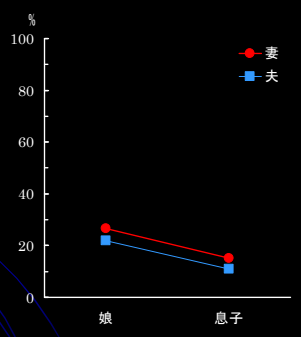
夫婦と子どものトライアドを分析の単位とし、499組のトライアドについて分析を行った。



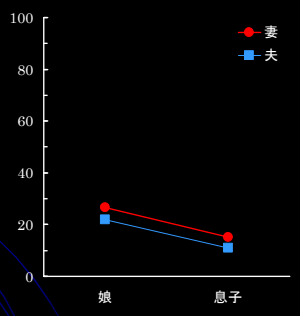
子どもの家までの距離



週に1回以上会う



週に1回以上会う

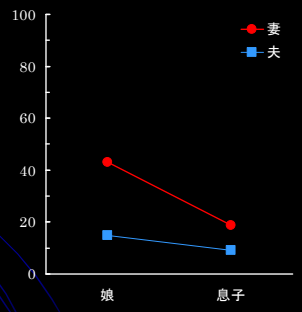


分散分析の結果（参考）

夫婦の差	**
娘と息子の差	**
交互作用	ns

* $p < .05$
** $p < .01$

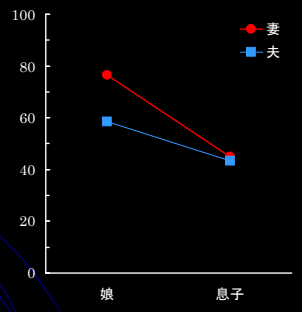
週に1回以上親から連絡する



分散分析の結果（参考）

夫婦の差	**
娘と息子の差	**
交互作用	**

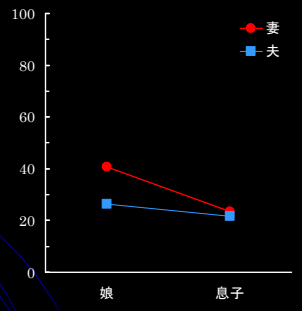
一緒におしゃべりをする



分散分析の結果（参考）

夫婦の差	**
娘と息子の差	**
交互作用	**

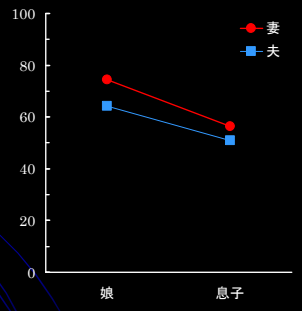
相談事を聞いてあげた



分散分析の結果（参考）

夫婦の差	**
娘と息子の差	**
交互作用	**

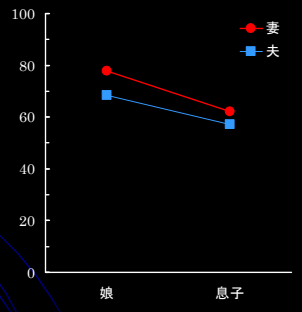
一緒にいてほっとする



分散分析の結果（参考）

夫婦の差	**
娘と息子の差	**
交互作用	ns

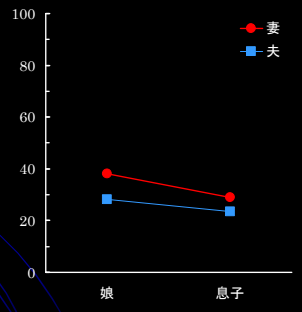
プレゼントをあげた



分散分析の結果（参考）

夫婦の差	**
娘と息子の差	**
交互作用	ns

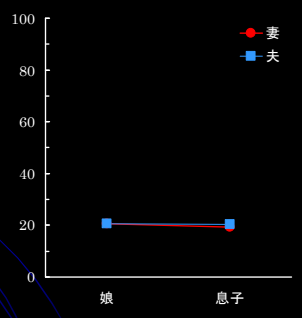
用事をしてもらった



分散分析の結果（参考）

夫婦の差	**
娘と息子の差	*
交互作用	ns

金銭的援助をしてあげた



分散分析の結果（参考）

夫婦の差	ns
娘と息子の差	ns
交互作用	ns

分散分析の結果の要約

	夫婦の差	娘と息子の差	交互作用
週に1回以上会う	**	**	ns
週に1回以上親から連絡する	**	**	**
週に1回以上子どもから連絡がある	**	**	**
一緒におしゃべりをする	**	**	**
一緒に買い物などをする	**	**	**
相談事を聞いてあげた	**	**	**
相談事を聞いてもらった	**	*	**
一緒にいてほっとする	**	**	ns
プレゼントをあげた	**	**	ns
プレゼントをもらった	**	**	ns
用事をしてあげた	**	**	ns
用事をしてもらった	**	*	ns
金銭的援助をしてあげた	ns	ns	ns
金銭的援助をしてもらった	ns	ns	ns

* $p < .05$
** $p < .01$

【結果の要約と考察】

父親と比べて母親は別居子との間に密接な交流を維持している。

息子と比べて娘は老親との間に密接な交流を維持しており、娘と息子の差は距離の差によるものではない。

老親子間の交流のうち同伴行動と情緒的サポートの授受では、母親と娘の関係が特に密接である傾向が認められた。

子ども（特に娘）と母親との間の情緒的な結びつきの強さが、子どもとの交流に見られる夫婦の差をもたらしていると考えられる。